

# 平成 24 年度事業報告

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

## I 会務運営

### (1) 総会

第 45 回定時社員総会を平成 24 年 6 月 8 日 (金) 15 時から、東京都千代田区・都市センターホテルにおいて開催し、下記の議案を付議した。出席代議員数は 70 名 (うち委任状出席 58 名) で、定款第 19 条第 1 項に定める定足数 (総代議員数 84 名の過半数) を満たしており、社員総会が成立した。

- 1) 平成 23 年度事業報告、同決算報告を原案どおり承認、可決した。
- 2) 任期満了に伴う役員の後任選出については、原案どおり理事 17 名、監事 1 名を承認、可決した。
- 3) 海外会員 1 名を含む 15 名を名誉会員に推挙する提案を、原案どおり承認、可決した。
- 4) 平成 24 年度事業計画、同収支予算をそれぞれ報告した。

### (2) 理事会

#### 1) 定例理事会

定例理事会を 5, 6 (2 回), 8, 10, 12, 2, 3 月の合計 8 回開催した。主要な処理事項は、次のとおりである。

- i) 平成 23 年度事業報告案、同決算報告案、平成 24 年度事業計画、同収支予算を審議・承認した。
- ii) 会員の入退会を承認した。
- iii) 2013 年日本コンクリート工学会賞受賞者として、論文賞 3 点 (受賞者 11 名)・技術賞 4 点 (受賞者 16 名)・作品賞 2 点 (受賞者 10 名)・奨励賞 2 点 (受賞者 2 名)、および功労賞 12 名を決定した。
- iv) 平成 24 年度コンクリート技士・同主任技士試験およびコンクリート診断士試験の合格者を決定した。

#### 2) 臨時理事会

臨時理事会を平成 24 年 6 月 8 日に開催して、魚本健人理事を会長に、阿部道彦および藤井敏道理事を副会長に、河井徹理事を専務理事に選任した。

### (3) 登録関連事項

[登記]

- 1) 平成 24 年 5 月 18 日に、役員の変更登記 (退任 1 名) を完了した。

- 2) 平成 24 年 6 月 11 日に、役員の変更登記（一部改選）を完了した。  
 3) 平成 25 年 3 月 27 日に、役員の変更登記（退任 1 名）を完了した。

[内閣府関係]

- 1) 平成 24 年 6 月 22 日、任期満了による代表理事の交代。  
 理事 2 名が任期途中で辞任若しくは死亡及び 18 名が任期満了により退任することによる理事 17 名の選任、並びに監事 1 名が任期満了により退任することによる監事 1 名の選任の変更届出書を内閣府に提出した。  
 2) 平成 24 年 6 月 29 日、平成 23 年度定期報告関連資料を内閣府に提出した。  
 3) 平成 25 年 3 月 28 日、平成 25 年度事業計画書及び平成 25 年度収支予算書を内閣府に提出した。

**(4) 委員会**

| 委 員 会                        | 委員長   | 委員数 | WG 数 | 委員会開催数 |      |
|------------------------------|-------|-----|------|--------|------|
|                              |       |     |      | 委員会    | WG 等 |
| 企画調整委員会                      | 魚本 健人 | 9   | —    | 7      | —    |
| 総務財務委員会                      | 藤井 敏道 | 7   | —    | 3      | —    |
| 役員候補推薦・調整委員会                 | 睦好 宏史 | 16  | —    | 2      | —    |
| 学会賞選考委員会                     | 丸山 久一 | 22  | 2    | 2      | 2    |
| 選挙管理委員会                      | 辻 幸和  | 12  | —    | 2      | —    |
| 長期財政安定化委員会                   | 丸山 久一 | 13  | 2    | 5      | 9    |
| 研究委員会                        | 大久保孝昭 | 19  | 1    | 3      | 1    |
| 技術委員会                        | 丸山 久一 | 10  | —    | 2      | —    |
| 標準化委員会                       | 丸山 久一 | 11  | —    | 3      | —    |
| 資格・講習委員会                     | 丸山 久一 | 13  | —    | 1      | —    |
| 国際委員会                        | 橋高 義典 | 14  | —    | 4      | —    |
| 広報普及委員会                      | 藤井 敏道 | 8   | —    | 1      | —    |
| コンクリート工学編集委員会                | 梅原 秀哲 | 39  | 12   | 11     | 15   |
| コンクリート工学論文集編集委員会             | 畑中 重光 | 20  | —    | 6      | —    |
| ACT 編集委員会                    | 前川 宏一 | 13  | —    | 6      | —    |
| 文献調査委員会                      | 綾野 克紀 | 21  | 2    | 10     | 18   |
| コンクリート工学年次大会委員会              | 丸山 久一 | 14  | —    | 2      | —    |
| コンクリート工学年次大会 2012(広島) 実行委員会  | 佐藤 良一 | 92  | 3    | 5      | 2    |
| コンクリート工学年次大会 2013(名古屋) 実行委員会 | 梅原 秀哲 | 73  | 7    | 23     | 1    |
| コンクリート工学年次論文査読委員会            | 二羽淳一郎 | 37  | —    | 3      | 1    |

|  |        |    |   |   |    |
|--|--------|----|---|---|----|
| コンクリート構造物のひび割れ進展評価手法に関する研究委員会                    | 中村 光   | 27 | 3 | 4 | 13 |
| 鉄筋腐食したコンクリート構造物の構造・耐久性能評価の体系化研究委員会               | 三島 徹也  | 25 | 4 | 3 | 14 |
| 混和材積極利用によるコンクリート性能への影響評価と施工に関する研究委員会             | 十河 茂幸  | 28 | 2 | 1 | 13 |
| データベースを核としたコンクリート構造物の品質確保に関する研究委員会               | 田村 隆弘  | 37 | 3 | 2 | 3  |
| ASR 診断の現状とあるべき姿研究委員会                             | 山田 一夫  | 27 | 3 | 3 | 7  |
| コンクリート分野における海水の有効利用に関する研究委員会                     | 大即 信明  | 35 | 4 | 3 | 11 |
| コンクリート工学分野における研究史の編纂と研究手法の体系化研究委員会               | 今本 啓一  | 25 | 1 | 4 | 1  |
| コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会                     | 杉山 央   | 16 | 3 | 3 | 6  |
| 放射性物質の封じ込めとコンクリート材料の安全利用調査研究委員会                  | 橘高 義典  | 25 | 4 | 3 | 7  |
| コンクリート構造物のインフラドック構築フェージビリティ調査研究委員会               | 大津 政康  | 23 | 3 | 3 | 6  |
| フライアッシュと細骨材を事前混合したコンクリート用材料の品質基準および使用方法に関する研究委員会 | 柘田 佳寛  | 26 | 1 | 3 | 1  |
| コンクリートの基本技術調査委員会                                 | 十河 茂幸  | 43 | 6 | 3 | 19 |
| マスコンクリートソフト作成委員会                                 | 田辺 忠顕  | 21 | 1 | 7 | 1  |
| マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂調査委員会                         | 佐藤 良一  | 35 | 5 | 1 | 16 |
| 既存コンクリート構造物の性能評価指針作成委員会                          | 三橋 博三  | 24 | 6 | — | 2  |
| コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会                   | 武若 耕司  | 15 | 2 | — | 8  |
| サステナビリティ委員会                                      | 堺 孝司   | 24 | 6 | 1 | 22 |
| コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会                           | 河野 広隆  | 30 | 4 | 1 | 7  |
| ISO/TC71 対応国内委員会                                 | 勅使川原正臣 | 61 | 6 | 1 | 24 |
| アジアモデルコード研究委員会                                   | 西山 峰広  | 29 | 4 | 2 | 2  |
| JCI 規準委員会  | 十河 茂幸  | 5  | — | 2 | —  |

|                                 |       |      |     |     |     |
|---------------------------------|-------|------|-----|-----|-----|
| I C C S 13 実行委員会                | 堺 孝司  | 22   | 3   | 4   | —   |
| S C M T 3 実行委員会                 | 宮川 豊章 | 33   | 3   | 3   | 2   |
| コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強<br>指針普及委員会 | 大即 信明 | 18   | 3   | 2   | 3   |
| 電子情報化委員会                        | 中村 光  | 12   | 1   | 4   | 2   |
| 東日本大震災に関する特別委員会                 | 三橋 博三 | 86   | 5   | 4   | 47  |
| コンクリート技術講習会委員会                  | 大久保孝昭 | 18   | 1   | 3   | 6   |
| コンクリート技士試験委員会                   | 早川 光敬 | 37   | 5   | 3   | 26  |
| コンクリート技士研修委員会                   | 早川 光敬 | 21   | 3   | 4   | 4   |
| コンクリート診断士委員会                    | 大即 信明 | 21   | —   | 2   | —   |
| コンクリート診断士講習会小委員会                | 梅原 秀哲 | 20   | 1   | 3   | 4   |
| コンクリート診断士試験小委員会                 | 武若 耕司 | 55   | 5   | 1   | 44  |
| コンクリート診断士研修小委員会                 | 河野 広隆 | 24   | 1   | 2   | 3   |
| ACF(アジアコンクリート連盟)対応委員<br>会       | 野口 貴文 | 10   | —   | 4   | —   |
| 計                               |       | 1421 | 131 | 190 | 373 |
|                                 |       |      |     | 563 |     |

## II 公益目的事業

### [ 公1 コンクリートに関する調査研究事業 ]

#### 1. 調査研究事業

##### (1) 研究委員会所管の委員会

(A) 平成24年度で終了した研究専門委員会

- 1) コンクリート構造物のひび割れ進展評価手法に関する研究委員会  
(平成23-24年度)
- 2) 鉄筋腐食したコンクリート構造物の構造・耐久性能評価の体系化研究委員会  
(平成23～24年度)
- 3) 混和材積極利用によるコンクリート性能への影響評価と施工に関する研究委員会  
(平成23～24年度)
- 4) データベースを核としたコンクリート構造物の品質確保に関する研究委員会  
(平成23～24年度)

(B) 平成25年度に継続する研究専門委員会

- 1) ASR 診断の現状とあるべき姿研究委員会 (平成 23-25 年度)
- 2) コンクリート分野における海水の有効利用に関する研究委員会 (平成 24-25 年度)
- 3) コンクリート工学分野における研究史の編纂と研究手法の体系化研究委員会 (平成 24-25 年度)
- 4) コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会 (平成 24-25 年度)
- 5) 放射性物質の封じ込めとコンクリート材料の安全利用調査研究委員会 (平成 24-25 年度)
- 6) コンクリート構造物のインフラドック構築フェージビリティ調査研究委員会 (平成 24-26 年度)
- 7) フライアッシュと細骨材を事前混合したコンクリート用材料の品質基準および使用方法に関する研究委員会 (平成 24-26 年度)

## (2) 技術委員会所管の委員会

- 1) コンクリート基本技術調査委員会
- 2) マスコンクリートソフト作成委員会
- 3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会
- 4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂調査委員会
- 5) 既存コンクリート構造物の性能評価指針作成委員会
- 6) サステナビリティ委員会

## (3) 支部研究委員会

- 1) (北海道支部) 既存コンクリート構造物の構造特性把握技術の現状調査研究委員会
- 2) (北海道支部) 北海道におけるコンクリート研究の変遷調査研究委員会
- 3) (北海道支部) 鉄筋コンクリート構造物のモデルコード研究委員会
- 4) (中部支部) 実大コンクリート構造物を利用したモニタリング研究委員会
- 5) (近畿支部) 性能評価型コンクリートに向けた骨材調査研究委員会
- 6) (中国支部) ごみ熔融スラグの構造用コンクリートへの活用調査研究委員会
- 7) (中国支部) フライアッシュのレディーミクストコンクリートへの利用調査特別研究委員会
- 8) (中国支部) 低強度コンクリートに関する特別研究委員会
- 9) (中国支部) 打設管理記録に基づくコンクリート構造物の品質確保に関する研究委員会
- 10) (四国支部) 鉄筋コンクリート造耐震壁の開口の取り扱いに関する研究委員会
- 11) (四国支部) フライアッシュコンクリートの耐久性評価研究委員会
- 12) (四国支部) コンクリートの強度に及ぼす養生条件に関する研究委員会
- 13) (四国支部) 四国の生コン技術力活性化委員会
- 14) (九州支部) サバルト繊維補強ポリマーの乾式吹付け工法研究専門委員会

15) (九州支部) 温暖化環境下におけるコンクリート施工品質の確保に関する研究専門委員会

16) (九州支部) コンクリート構造物の劣化実態の評価分析研究専門委員会

## \* 研究専門委員会等の活動報告

### (1-A-1)TC111A コンクリート構造物のひび割れ進展評価手法に関する研究委員会

(平成 23～24 年度)

ひび割れ進展挙動を正確に評価することでひび割れ抑制やひび割れコントロール技術の高度化に大きく寄与することを目的として、①ひび割れ進展の概念やひび割れ進展を形成する物理量の体系的整理、②ひび割れの状態や進展の評価法の検討、③最新のひび割れ計測やひび割れ進展解析技術の整理、④共通試験による解析の適用性評価、等をWGならびに全体委員会で討議を行った。

### (1-A-2)TC112A 鉄筋腐食したコンクリート構造物の構造・耐久性能評価の体系化研究委員会

(平成 23～24 年度)

鉄筋腐食を生じたコンクリート構造物の構造・耐久性能を時空間で数値的に表現可能な構造・耐久性能指数  $ID(t)$  の確立とこれを利用した補修・補強効果の定量化を目的とし、材料劣化の時空間軸での取り扱いを検討し (WG1)、腐食鉄筋および腐食鉄筋とコンクリートの付着に関する力学挙動のモデル化 (WG2) を行った。また、構造・耐久性能指数  $ID(t)$  の提案ならびに定式化 (WG3) を行うとともに、鋼材腐食部材の補修・補強事例をとりまとめ、構造・耐久性能指数を利用した補修・補強効果の定量化 (WG4) について検討した。以上の成果をとりまとめ、シンポジウムを併催する成果報告会の開催に向けて準備を行った。

### (1-A-3)TC113A 混和材積極利用によるコンクリート性能への影響評価と施工に関する研究委員会

(平成 23～24 年度)

高炉スラグ微粉末やフライアッシュなどの産業副産物を、コンクリート用混和材としてより積極的な利用をすることは、環境への影響を最小限にでき、資源有効利用の観点からも望ましい。この委員会では、平成 23 年度にはシンポジウムを開催し、その情報を活用し、各種混和材の使用がコンクリートの強度、耐久性などの性能に及ぼす影響を科学的に整理し、コンクリートの各種性能に及ぼす影響や施工上配慮すべき事項を明らかにし、実用に向けた環境を整備するために必要な法令や規準類の整理及び改善提案を取りまとめた。

### (1-A-4)TC114A データベースを核としたコンクリート構造物の品質確保に関する研究委員会

(平成 23～24 年度)

実構造物から得るデータベースを、新設構造物の品質の向上、維持管理における補修の効果の検証などに活用するシステム構築について 3 つの WG によって調査研究活動を行った。WG1 (品質確保システムの高度化・展開) では、既にコンクリート工事における

施工記録データベースを新設土木構造物の品質確保に活用している山口県のひび割れ抑制・品質確保システムの高度化及びその展開について、WG2（DBに基づく維持管理）では、データベースに基づく既設コンクリート構造物の維持管理について、そして、WG3（DBの活用）では、データベースの研究への活用や建築構造物分野への展開を議論した。

#### **(1-A-5) TC115FS ASR 診断の現状とあるべき姿研究委員会** (平成 23～25 年度)

ASR 診断および抑制対策のあるべき姿についてリスクとコストに着目した上で実効的な方法論を提示することを目的として、診断フローWG、最新情報 WG、および抑制対策 WG の 3WG を設置し活動を行った。ASR 診断に関する最先端の情報を調査すると共に、ASR に関する国際会議で有識者へインタビューを行い各国の抑制対策の最新情報を得た。

また、「ASR をどこまで抑制すべきか」に関するシンポジウムを開催、昨年度実施したアンケート調査結果を踏まえた基調講演とパネルディスカッションを行った。

#### **(1-B-1) TC121A コンクリート分野における海水の有効利用に関する研究委員会**

(平成 24～25 年度)

将来的な水不足問題および遠隔離島や沿岸域での効率的なコンクリート構造物の建設に資するため、練混ぜ水、養生水、清掃水などへの海水の有効利用について、事例調査 WG、物性評価 WG、性能向上 WG および製造施工 WG を設けて調査した。特に、海水を用いたコンクリートの①実構造物での事例収集、②物性把握、③性能向上および補強材に関する情報収集、④実製造・施工における課題抽出を行った。さらに、海外通信委員を通じてコンクリート分野における海水の有効利用に対する諸外国の動向を調査した。

#### **(1-B-2) TC122A コンクリート工学分野における研究史の編纂と研究手法の体系化研究委員会**

(平成 24～25 年度)

本委員会の目的は、先達が残した研究の系譜を克明に辿り、論文には直接的に表れてこない研究に対する姿勢、目的を達成するための方法論を整理・体系化することにある。これを通して、コンクリート工学分野における研究の変遷史を作成するとともに、先達の研究の方法論を抽出し、その歴史的背景の理解や、他分野との比較分析を行うことにより、今後の新たな研究手法の可能性を次の方法などにより模索するものである。平成 24 年度は曲げひび割れ幅算定式を提案した北海道大学名誉教授角田興史雄先生、実用的な水和反応モデルを提案されまた耐久性総プロや JASS5 を牽引された東京大学名誉教授友澤史紀先生、そして耐震設計の導入を果たした横浜国立大学名誉教授池田尚治先生のインタビューを実施した。

#### **(1-B-3) TC123A コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会**

(平成 24～25 年度)

コンクリートの製造および施工過程におけるトレーサビリティ確保の実現に向けて、3 つの WG を設置して活動を行った。現状技術調査 WG (WG1) ではコンクリートのトレーサビリティ確保に関する研究報告や実施例を調査し、約 125 の情報を収集した。また、参考として、コンクリート以外の領域におけるトレーサビリティの取り組みも調査した。識別技術検討 WG (WG2) では個々のコンクリートに識別記号を付与する技術を

検討し、IC タグや GPS 技術の適用可能性を検討した。履歴情報検討 WG (WG3) では記録・保存すべき履歴情報の抽出を行った。

#### **(1-B-4)TC124A 放射性物質の封じ込めとコンクリート材料の安全利用調査研究委員会** (平成 24～25 年度)

WG 1 (発電所からの漏洩防止) では、福島第一原子力発電所事故に伴う環境劣化外力の整理と応答するコンクリート物性に関して情報の収集と分析を行った。WG 2 (汚染物質の低減) および WG 3 (汚染物質の封じ込め) では、福島第一原子力発電所事故に伴って環境中に放出された放射性物質による汚染の現状に関する情報収集を行うとともに、コンクリート材料に関連する知見を整理した。WG 4 (再利用技術 WG) では、所定のベクレル以下に除染された、あるいは低汚染なコンクリートガラを再利用する技術の整理を目的とし情報収集を行った。

#### **(1-B-5)TC125FS コンクリート構造物のインフラドック構築フェージビリティ調査研究委員会** (平成 24～26 年度)

東日本大震災復興の今後も踏まえれば、コンクリート既設建設物の維持管理及び点検・診断のための技術と制度の整備が必要である。そこで、インフラドック構築のための点検技術として現場計測法の整備を図り、インフラドックに有用な検査法の整理・提案を早急に行い、業務の制度の確立などに対処すべく、以下の 3 つの WG を設置してフェージビリティ調査を行った。

WG1: 有用な現場仕様のコンクリート欠陥評価法の整理

WG2: インフラドック現場検査手順の確立とセットメニューなどの提案

WG3: 検査制度の確立と検査員としてのコンクリート診断士の活用

委員会での成果を報告し委員会委員以外の声も知り今後の展開の糧とするため、JCI フォーラム「インフラドック制度への期待」を平成 25 年 3 月 12 日に京都大学東京オフィス会議室にて開催した。

#### **(1-C-1) TC126C フライアッシュと細骨材を事前混合したコンクリート用材料の品質基準および使用方法に関する研究委員会** (平成 24～26 年度)

フライアッシュは環境配慮の観点から利用拡大が望まれているが、レディーミクストコンクリート工場における取り扱いの面からも普及拡大が遅れている。本研究委員会は、フライアッシュの利用拡大のための一つの方法として遊休のレディーミクストコンクリート工場の施設などを活用し、フライアッシュを細骨材に事前混合し、細骨材の性質を改善するなどによってフライアッシュの利用拡大を図ることを目的として活動を開始した。

平成 24 年度は、フライアッシュと細骨材を事前混合したコンクリート用材料の位置付けを検討するとともに、事前混合するときの問題点を抽出し、それらの問題点に関して検討された報告類を整理した。

#### **(2-1) コンクリート基本技術調査委員会**

コンクリートに関する基本技術に有用な情報を提供することを目的に活動した。「打込



み・締固め」,「細骨材品質」,「配合・調合」,「圧送」,「養生」,「不具合補修」の6WGにおいて基本技術の整理を行った。このうち,不具合補修WGでは,「不具合の対処方法」をとりまとめ,全国9会場で報告会を実施した。配合・調合WGでは,成果を会誌に掲載するための解説を作成した。また,細骨材品質WGは,細骨材の品質評価のための共通試験を行った。

#### **(2-2) マスコンクリートソフト作成委員会**

平成24年度における主な活動成果を以下に示す。①JCMAC3をバージョンアップした。(最新バージョン,Ver.2.3.5)②JCMAC3にパイプクーリング機能(多分岐配管に対応できるようにした。熱交換媒体は水,あるいは空気でも解析可能とした。)を追加した。③JCMACU(仮称,ひび割れ発生後の耐荷力解析機能)の作成に着手した。④JCMAC3の特許審査請求手続きを開始した。⑤JCMAC1とJCMAC2を統合化したNewJCMACを作成した。⑥JCMAC1,2,3のサポートを実施した。⑦3次元マスコンクリート温度応力解析ソフトJCMAC3講習会(トレーニングセミナー)を2回開催した。

#### **(2-3) コンクリートの構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会**

本委員会にて,これまでに開発し,市販しているコンクリート構造物の長期シミュレーションソフトには,「LECCA1」,「LECCA2」および「LECCA2 Lite」の3種がある。これらは,それぞれに特徴があり,2次元的な解析である。しかし,近年,このソフトを維持管理において適用したいとの要望が増えていること等に鑑み,平成24年度は,構造物における飛来塩分量などの環境外力の3次元的な影響範囲の特定,および,3次元構造物における劣化現象予測に対応できる劣化シミュレーションモデルの検討を行った。また,本ソフトを用いて劣化現象に応じた最適な補修工法を選定することを想定した場合のソフトのコンセプトを構築し,これをLECCAシリーズに組み込むための検討を行った。

#### **(2-4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂調査委員会**

委員会,主査幹事会で平成24年度調査研究計画を審議し,設置した各WGにおいて以下の項目を実施した。①自己収縮・膨張評価式の高精度化と適用範囲拡大のため,セメント7種類,W/C3水準,温度3水準の条件で物性試験を開始した。②入力データおよび解析方法のガイドラインを作成し,温度ひび割れ発生確率の精緻化と簡易評価式作成のための解析計画(約800ケース)を策定した。③DEFに関する国内外の文献調査を行うとともに,DEFの再現実験計画を検討した。④マスコンクリートのひび割れ制御指針を海外展開するための課題等について検討した。

#### **(2-5) 既存コンクリート構造物の性能評価指針作成委員会**

前年度までに作成した指針(修正案)をJCI規準委員会に諮って再査読を受けた。その結果に対する必要な修正を行い,JCI標準化委員会に諮って査読を受け,既存コンクリート構造物の性能評価に関するJCI指針(案)の理事会承認へ向けて準備作業を行った。

#### **(2-6) サステナビリティ委員会**

本委員会では,認証登録検討WG,教科書検討WG,評価ツール検討WG,評価指標検討

WG、及びサステナビリティフォーラムで活動を行った。認証登録検討WGでは認証システムのフィージビリティスタディを、教科書検討WGではテキストと問題の作成を、評価ツール検討WGでは具体的なツール開発を、評価指標検討WGでは指標開発の基本的方向の確認を、及びフォーラムではウェブサイトのコンテンツ開発を行った。また、幹事会では、将来の「JCI コンクリート環境士（仮称）」創設の可能性について審議し、今後の活動の基本的方向を決めた。

## 2. 標準化事業

### 標準化委員会

当学会発刊の書籍等で用いるコンクリート用語の統一、JCI 規準案「軽量型枠を用いた膨張コンクリートの拘束膨張試験方法」を制定した。JCI 指針案「既存コンクリート構造物の性能評価指針」の制定に関して審議した。

コンクリート用語については、推奨用語を取り纏め、学会内の各委員会への周知を図った。また、JCI 規準については、JCI-S-009 として公表した。

### 標準化委員会所管の委員会

- 1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会
- 2) ISO/TC71 対応国内委員会
- 3) アジアモデルコード研究委員会
- 4) JCI 規準委員会

#### (1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

- 1) TS A 0026 (試験に用いる骨材の縮分方法) の JIS 化の申し出を行った。
- 2) 次の試験方法 JIS の改正について検討を行った。
  - ・ JIS A 1145:2007 骨材のアルカリシリカ反応試験方法-化学法-
  - ・ JIS A 1146:2007 骨材のアルカリシリカ反応試験方法-モルタルバー法-
  - ・ JIS A 1105:2007 細骨材の有機不純物試験方法
  - ・ JIS A 1111:2007 細骨材の表面水率試験方法
  - ・ JIS A 1121:2007 ロサンゼルス試験機による粗骨材のすりへり試験方法
  - ・ JIS A 1125:2007 骨材の含水率試験方法及び含水率に基づく表面水率の試験方法

#### (2) ISO/TC71 対応国内委員会

- 1) ISO/TC71 および各 SC への対応

2012年6月22日にISO/TC71の総会が、また、総会に先立つ6月19日から21日にかけて各SCが、コスタリカ・サンホセにて開催された。委員会から、SC議長並びに幹事、およびエキスパートとして委員を派遣した。

## 2) ISO/TC71 の SC 幹事国等業務の遂行

コスタリカ・サンホセにて、次の SC 議長・幹事・WG コンビーナの役割を務めた。

- ・ SC6 (コンクリートの新しい補強材) : 議長および幹事
- ・ SC7 (コンクリート構造物の維持および補修) : 議長, WG1 コンビーナおよび WG4 コンビーナ
- ・ SC8 (コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント) : 議長および幹事

## 3) ISO 規格案 (CD, DIS, FDIS, 等) への対応

日本から提案した次の規格について、新規提案投票が行われた。投票の結果いずれも承認され、規格作成が開始された。

- ・ FRP によるコンクリートの補強 - FRP シートの仕様
- ・ プレストレストコンクリート水道タンクの簡易設計法

上記を含め、ISO/TC71 から提案された各種規格案等の投票 13 件 (FDIS 投票 6 件, DIS 投票 4 件, NWI 投票 3 件) に対応した。

### (3) アジアモデルコード研究委員会

設計 WG では、建築構造物を対象とした現在の APMC (アジアコンクリートモデルコード) Design for Fire Actions を土木構造物にも適用できるように拡張するべく、2012 年 10 月にタイで開催された ACF 会議において New Work Item として提案を行った。また、せん断破壊するなど負勾配の復元力特性を持つ既存構造物の地震応答評価手法について検討した。

材料・施工 WG では、コンクリートおよびコンクリート構造物の環境ラベリングの国際規格開発について、ISO 13315 の Part8 では新規プロジェクトの提案および WD の完成に向けて、韓国と意見交換を行った。また、ISO 13315 の Part2 については、昨年度完成した WD を CD として登録した後、DIS としての登録の可否および修正点についての意見を求めた結果、幾つかの修正意見が寄せられたため、それらに基づいて CD の修正を施した。

維持管理 WG では、各国の調査診断技術についての調査を実施したほか、APMC Part3 の修正案を作成した。

### (4) JCI 規準委員会

「日本コンクリート工学会規準・指針の制定／改正に関する規定」の改正を行った。また、「既存コンクリート構造物の性能評価指針 (案)」と「膨張コンクリートの封かん養生による拘束膨張および圧縮強度試験方法試案」の審議を行った。

## 3. 国際協力および交流

(1) 2012 年 4 月 1 日に、ソウル (韓国) にて開催された ACF 正副会長会議に国際委

員会の上田多門委員を派遣した。

- (2) 2012年4月12日、13日に、デリー（インド）において第3回 ACF サステナビリティ・フォーラムが開催され、ACF 対応委員会野口貴文委員長、堺孝司委員を派遣した。また、10月25日にパタヤ（タイ）にて第4回が、2013年3月9日に第5回がホーチミン（ベトナム）にて開催され、それぞれの会議に野口貴文委員長および堺孝司委員を派遣した。
- (3) 2012年5月29日～31日に、メキシコシティ（メキシコ）において FORO INTRNACIONAL del CONCRETO 2012 が開催され、阪田元会長および丸山副会長を派遣した。
- (4) 2012年6月11日～14日に、ストックホルム（スウェーデン）にて開催された fib Steering Committee 等に国際委員会の堺孝司委員をおよび西山峰広委員を派遣した。
- (5) 2012年6月19日～22日に、サンホセ（コスタリカ）にて開催された ISO/TC71 総会および各 SC に、ISO/TC71 対応国内委員会委員会の勅使川原正臣委員長、堺孝司副委員長、魚本健人会長、および上田多門、武若耕司、野口貴文、横田弘、載建国の各委員を派遣した。
- (6) 2012年7月2日に、3rd JCI-KCI-TCI シンポジウムを広島にて開催した。
- (7) 2012年9月19日に、JCI-ACI Meeting を東京にて開催し、ACI と JCI との共同事業について議論した。
- (8) 2012年10月24日、25日に、パタヤ（タイ）にて開催された第5回 ACF 大会に ACF 対応委員会の野口貴文委員長ほか4名を派遣した。
- (9) 2012年10月25日に、パタヤ（タイ）にて開催された ACF EC 会議に ACF 対応委員会の野口貴文委員長を派遣した。
- (10) 2012年11月7日～9日に、Deogyusan（韓国）にて開催された KCI Fall 2012 Convention に魚本健人会長を派遣した。
- (11) 2012年12月8日と2013年2月20日に、ソウル（韓国）にて開催された ISO 13315-8 の規格化方針およびフレームワークに関する検討会議に、ISO/TC71 国内対応委員会の堺孝司副委員長および野口貴文委員を派遣した。
- (12) 2013年3月11日に、パリ（フランス）にて開催された RILEM・TAC 会議に国際委員会の野口貴文委員を派遣した。
- (13) 2013年3月13日、14日に、マラヤ（マレーシア）にて開催された Joint Seminar of Practical Guideline for Investigation, Repair and Strengthening of Cracked Concrete Structures に、ひび割れ補修補強指針普及委員会の大即信明委員長他2名を派遣した。
- (14) 1<sup>st</sup> International Conference on Concrete Sustainability (ICCS13) について、昨年に引き続き、ICCS13 実行委員会（堺孝司委員長）にて準備を行った。開催日程（場所）：2013年5月27日～29日（東京）
- (15) 3<sup>rd</sup> International Conference on Sustainable Construction Materials and Technologies (SCMT3) について、昨年に引き続き、SCMT3 実行委員会（宮川豊章委員

長)にて準備を行った。開催日程(場所):2013年8月19日~21日(京都)

## 4. 受託研究事業

### (1) 国際標準開発関連

経済産業省からの受託業務である「国際標準開発事業」(テーマ名「コンクリート構造物の被災低減と被災後の早期復旧・復興に資する技術に関する国際標準化」)に基づき、「コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント」、「コンクリートおよびコンクリート構造物の環境ラベリング,ならびに必要関連規格」、「コンクリート構造物の耐震診断および耐震補強」、「コンクリート補強用FRP材料」、「水道用プレストレストコンクリートタンクの簡易設計方法」、「壁式鉄筋コンクリート造建物の簡易耐震設計法」の6項目について国際標準の開発を進めた。アジアモデルコード研究委員会ならびにISO/TC71対応国内委員会で討議を重ね、成果報告書を提出した。

### (2) 研究委員会関連

フライアッシュと細骨材を事前混合したコンクリート用材料(FAサンド)の品質基準および使用方法の策定についてFAサンド研究会から委託があり、受託研究として委員会を組織し、活動を開始した。

## 5. 出版事業

次の論文集,研究報告書,テキスト等を刊行した。

- 1) コンクリートの高温特性とコンクリート構造物の耐火性能に関する研究委員会報告書
- 2) 微破壊試験を活用したコンクリート構造物の健全性診断手法調査研究委員会報告書
- 3) コンクリートの収縮特性評価およびひび割れへの影響に関する調査研究委員会報告書
- 4) 繊維補強セメント系複合材料の新しい利用法に関するシンポジウム委員会報告書・論文集
- 5) 耐久性力学に基づく収縮影響評価研究委員会報告書
- 6) コンクリート基本技術調査委員会不具合補修WG報告書
- 7) コンクリート工学年次論文集 第34巻2012年(CD-ROM版)
- 8) コンクリート技術の要点'12
- 9) 平成24年度コンクリート技士研修テキスト
- 10) コンクリート診断技術'13
- 11) Technical Committee Reports 2012 (JCI研究委員会報告書要旨)

## 6. 会誌発行事業

### (1) 会誌「コンクリート工学」

毎月1回刊行して会員に頒布した。

特集テーマは次のとおりである。

- |                             |          |
|-----------------------------|----------|
| 1) 高機能・高性能化する繊維補強コンクリート     | 平成24年5月号 |
| 2) 建設業におけるIT革命最前線           | 平成24年9月号 |
| 3) コンクリート技術者の挑戦 ―不易流行の観点から― | 平成25年1月号 |

## (2) コンクリート工学論文集

オンラインジャーナルとして23巻2号、23巻3号および24巻1号をWEB (J-STAGE) に公開した。

## (3) 英文ジャーナル 'Journal of Advanced Concrete Technology'

オンラインジャーナルとして Vol.10(No.4~No.12)および Vol.11(No.1~No.3)をWEB (J-STAGE) に公開した。

## 7. 広報事業

### (1) 広報活動

- 1) 会誌「コンクリート工学」、本学会パンフレット、ホームページ等により活動状況等の広報活動を行った。
- 2) 関係6団体と共同でコンクリートサステナビリティ宣言を平成24年4月24日に行った。
- 3) 専門会委員会HP開設、講習会等のオンデマンド配信の試行を承認した。

### (2) コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針普及委員会

本委員会では、2009年に発刊した「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針 - 2009 -」および、この英語訳である「Practical Guideline for Investigation, Repair and Strengthening of Cracked Concrete Structures -2009-」に対しての利用者からの質問や講演会の要請に対する対応、あるいは、ひび割れ判定ソフトの改良による用途拡大等に関する検討を行い、ひび割れ指針の普及促進を目的とした活動を行った。平成24年度は主に以下の項目に関して議論し、具体的な活動を行った。

- ① 本指針2013年度版の発行
  - ・2009年度版から小改訂を行った。
- ② 国内講習会・海外講習会の開催【普及（国内・海外）対応WG】
  - ・北海道支部の要請により講師を派遣し講習会を行った。
  - ・マレーシア マラヤ大学の要請により講師を派遣し講習会を行った。
- ③ 次回指針改訂に向けた取り組み【指針改訂企画WG】
  - ・現行の指針の問題点やユーザーからの要望等を発掘した。（アンケートの実施）
- ④ ソフトのカスタマイズ等について【判定ソフト対応WG】
  - ・県や市町村など地方自治体レベルからの要望の集約を行った。

### (3) 電子情報化委員会

本委員会では、本学会全体に関わる情報の電子化、情報技術の有効活用に関する審議

を行い、会員やコンクリート関係者への電子情報の提供やコンクリート技術の一般への発信を行っていくことを主要な活動項目としている。平成24年度は主に以下の項目に関する活動を行った。

- ・ 会員専用ページのシステムの公開とその有効活用
- ・ JCI 発行物（会誌、工学論文集、年次論文集、ACT 等）の電子公開に向けた検討、作業の具体化
- ・ メールニュースの配信の拡充（通常号、講習会などの案内号、論文集の案内号など）
- ・ メールニュースの内容改善ならびに閲覧者増加の方策の検討
- ・ 研究委員会ホームページの作成支援ならびに更新の推進
- ・ 本学会ホームページリニューアルならびに運用方法・内容の検討支援
- ・ 既出版物のデジタルアーカイブ化推進に関する検討
- ・ 年次大会向け査読投稿システムの変更に関する検討

## 8. 震災関連事業

### （1）東日本大震災に関する特別委員会

特別委員会は、材料生産・施工小委員会、構造設計小委員会、エネルギー関連施設小委員会の3つの小委員会を中心に活動を行った。活動期間2年目を迎え、東日本大震災による甚大な地震・津波被害に関して収集した情報を本学会独自の観点から整理・分析し、コンクリート年次大会2012(広島)にて中間報告を行った。また、教訓と対策に関する検討結果を第二次提言としてまとめ、2年間の活動成果を委員会報告書としてまとめた。

さらに、第二次提言を記者発表することと、東京と大阪において活動成果報告会を開催することとした。

### （2）関連学協会との共同活動

1) 日本学術会議「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」への参加

① 5月10日に、30学会の共同声明「国土・防災・減災政策の見直しに向けてー巨大災害から生命と国土を護るためにー」を発表した。

② 8月8日に、第7回連続シンポジウム「大震災を契機に国土づくりを考える」において、「コンクリート工学が果たす役割」と題して丸山久一副会長が講演した。

③ 11月29日に、学術フォーラム「自然災害と国土保全」において、「国土保全、インフラ整備におけるコンクリート構造物の役割と課題」と題して丸山久一副会長が講演した。

2) 建設系7学会で「東日本大震災 国土・地域復興に関連する7学会 会長共同提言」と題する提言を内閣総理大臣および国土交通大臣に答申した。

3) 国土交通大臣感謝状の授与

7月27日に、「東日本大震災に際し、種々の困難を克服して、被災地域の復旧、被災住民の救助活動等を行い、地域住民の生活と社会基盤の安定に功績のあった者に対し、国土交通大臣より感謝状を授与するものである。」との趣旨で、東日本

大震災関係功労者に対して国土交通大臣から感謝状の授与があった。本学会には「早期復旧等に係る諸施策の検討に資する功績」に該当するとして、関連 8 学協会とともに感謝状が授与された。

## [ 公 2 講演会等事業 ]

### 1. 年次大会事業

#### (1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会 2012 (広島) を平成 24 年 7 月 4 日 (水) ~6 日 (金) の 3 日間、広島国際会議場において開催した。

佐藤良一実行委員長の開会の辞、魚本健人会長の挨拶、KCI 沈会長および TCI 張会長の祝辞に続き丸山久一副会長による JCI 活動報告に続いて次の行事を行った。

#### 1) 第 34 回コンクリート工学講演会

講演題数 558 編 参加者 1,506 名

#### 2) 特別講演会 聴講者数 474 名

関西大学理事・社会安全学部長・教授、  
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長  
河田 恵昭氏

演題 「東日本大震災の経験を生かした減災対策」

#### 3) 生セミナー

テーマ「やりがいのある生コンクリートに向けて  
～やりがいはより良いコンクリートに繋がる～」

参加者 608 名

#### 4) 見学会

①山口県における良質なコンクリートの製造現場の最前線ー材料から施工までー  
参加者 22 名

②広島における歴史的コンクリート系建物と現代建築物の共存  
参加者 18 名

#### 5) 特別委員会による中間報告会：「東日本大震災に関する特別委員会」

聴講者数 290 名

#### 6) 大会懇親会参加者数 参加者 311 名

7) 閉会式において、年次論文奨励賞 53 名の表彰を行い、副賞として、「フォトフレーム」を贈った。

### 2. 講演会・講習会・シンポジウム等

#### (1) コンクリート技術講習会



第45回コンクリート技術講習会を、10月1日から10月26日にかけて、会期2日間で全国7都市(札幌・仙台・東京2開催・名古屋・大阪・広島・福岡)において開催した。聴講者は、全国で557名(前年度739名)であった。

## (2) シンポジウム・セミナー・報告会

- 1) 「微破壊試験を活用したコンクリート構造物の健全性診断手法調査研究委員会報告会」を6月1日に東京工業大学大岡山キャンパスで開催した。参加者数は131名であった。
- 2) 「コンクリート基本技術調査委員会不具合補修WG報告会」を8月20日から2013年2月1日にかけて、東京、札幌、仙台、名古屋、大阪、金沢、岡山、福岡、高松の全国9会場で開催した。参加者数は、合計647名であった。
- 3) 「コンクリートの収縮特性評価およびひび割れへの影響」に関するシンポジウムを8月27日に、東京・品川区立総合区民会館「きゅりあん」において開催した。参加者は120名であった。
- 4) 「耐久性力学に基づく収縮影響評価研究委員会報告会」を10月3日に、東京大学農学部弥生講堂にて開催した。参加者数は、108名であった。
- 5) 「社会情勢とコンクリート産業構造の関連性検討委員会報告会」を11月9日に芝浦工業大学芝浦キャンパスにて開催した。参加者数は112名であった。
- 6) 「ASRをどこまで抑制すべきか」に関するシンポジウムを、12月3日に東京・品川区立総合区民会館「きゅりあん」において開催した。参加者は149名であった。

## (3) 支部主催のシンポジウム・セミナー・報告会

- 1) (北海道支部) 支部総会特別講演「構造物ライフサイクルマネジメントの実現に向けて」5月8日、北海道大学大学院 横田弘氏
- 2) (北海道支部) 出前講座「北見工業大学とコンクリート」10月16日  
北見工業大学 鮎田耕一氏
- 3) (北海道支部) 出前講座「既存鉄筋コンクリート建築物の耐震診断と補強について」  
10月16日 北海道大学大学院 後藤康明氏
- 4) (北海道支部) 出前講座「コンクリートを巡る国際標準の動きと今後の対応」  
10月16日 北海道大学大学院 横田弘氏
- 5) (北海道支部) 「コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント研究委員会成果報告会」6月1日
- 6) (北海道支部) 「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針」講習会11月22日
- 7) (東北支部) 専門研究委員会「コンクリート構造物のLCC評価研究委員会」報告会  
6月28日から12月7日まで、仙台、青森、山形、岩手、秋田、福島にて実施。
- 8) (関東支部) 支部総会特別講演会「復旧・復興へ向けてのコンクリート工学の貢献」  
5月11日 首都大学東京 橘高義典氏

- 9) (関東支部) 支部総会特別講演会「津波による橋梁の被害と原因分析」5月11日  
横浜国立大学 細田暁氏
- 10) (関東支部) 埼玉地区：見学会「港湾空港技術研究所見学会」7月17日
- 11) (関東支部) 埼玉地区：コンクリート技術懇談会 第9回総会 9月21日
- 12) (関東支部) 埼玉地区：講習会「コンクリート構造物の非破壊・微破壊試験に関する講習会」9月21日
- 13) (関東支部) 群馬地区：講習会「フレッシュコンクリートの性能評価」2月13日
- 14) (関東支部) 栃木地区：「研究発表会」3月7日
- 15) (中部支部) 「東日本大震災とこれからのコンクリート技術」11月30日
- 16) (中部支部) 『第8回学生研修会』9月18日
- 17) (近畿支部) 特別講演会「性能評価型コンクリートに向けた骨材調査研究委員会報告」  
5月10日, E S C 建材(株) 片岡宏治氏, 大阪産業大学 高見新一氏
- 18) (中国支部) 研究委員会報告会「ごみ溶融スラグの構造用コンクリートへの活用調査  
研究委員会報告」5月16日, 広島大学 佐藤良一氏
- 19) (中国支部) 研究委員会報告会「フライアッシュのレディーミクストコンクリートへの  
利用調査特別研究委員会報告」5月16日  
エネルギー・エコ・マテリア 斉藤直氏
- 20) (中国支部) 講演会「施工時に生じる不具合とその対策～施工管理で気を付けること  
～」11月30日, 広島工業大学 十河茂幸氏
- 21) (中国支部) 講演会「RC 立体耐震壁と ECC 連結梁の高層新架構」11月30日,  
島根大学大学院 丸田誠氏
- 22) (中国支部) 講演会「コンクリート構造物のひび割れ(事前対策から補修まで)に関する  
講習会」12月21日, 徳山高等専門学校 田村隆弘氏他4名
- 23) (四国支部) 特別講演会「津波に対する Disaster Management について」4月27日  
高知工科大学 草柳俊二氏
- 24) (四国支部) 講習会「コンクリートのポンプ施工指針[2012年版]&高流動コンクリ  
ートの配合設計・施工指針発刊に関する講習会」9月12日
- 25) (四国支部) 講習会「生コンセミナーin 松山ー残コン・戻りコンの発生抑制及び有  
効利用ー」11月7日
- 26) (四国支部) 見学会「高知港三里地区防波堤延伸工事」9月27日  
場 所：高知港湾・空港整備事務所 高知港三里地区防波堤工事
- 27) (四国支部) 講習会「コンクリート基本技術調査委員会・不具合補修 WG 報告会～施  
工中に発生した不具合の補修のあり方～」2月1日
- 28) (九州支部) 特別講演会「東日本大震災によるコンクリート構造物の被災状況」  
4月20日, 財団法人 鉄道総合技術研究所 渡辺健氏
- 29) (九州支部) 講習会「セメント系補修・補強材料」に関する技術講習会 9月5日
- 30) (九州支部) 見学会 10月25日

見学地：三菱マテリアル(株)東谷鉱山，麻生ラファージュセメント(株)田川工場  
201号飯塚庄内田川バイパス建設工事現場

31) (九州支部) 講習会「乾式吹付け工法」に関する講習会 3月28日

### 3. 国際会議，国際シンポジウム等

3rd JCI-KCI-TCI シンポジウムを平成24年7月2日に広島にて開催した。参加者数は52名であった。

## [ 公3 表彰事業 ]

### 1. 学会賞

2012年日本コンクリート工学会賞(論文賞，技術賞，作品賞，奨励賞，功労賞)に選考されたのは論文賞3件，技術賞3件，作品賞1件，奨励賞1件，功労賞7名で，社員総会に引き続いて行われた贈呈式において表彰した。

#### (1) 論文賞

1) 高流動モルタルを用いた低レベル放射性廃棄物処分施設の低拡散層構築に関する基礎研究(総合題目)

庭瀬 一 仁 (日本原燃(株))

杉橋 直行 (清水建設(株))

辻 幸 和 (前橋工科大学)

2) Numerical Simulation on Shear Capacity and Post-Peak Ductility of Reinforced High-Strength Concrete Coupled with Autogenous Shrinkage

Esayas Gebreyouhannes (Addis Ababa University)

前川 宏 一 (東 京 大 学)

3) Behaviour of Strain-Hardening Cement-Based Composites Under High Strain Rates

Viktor Mechtcherine (Technische Universität Dresden)

Flávio de Andrade Silva (Technische Universität Dresden)

Marko Butler (Technische Universität Dresden)

Deju Zhu (Arizona State University)

Barzin Mobasher (Arizona State University)

Shang-Lin Gao (Leibniz-Institut für Polymerforschung Dresden)

Edith Mäder (Leibniz-Institut für Polymerforschung Dresden)

#### (2) 技術賞

1) 大林組技術研究所新本館の設計と施工

瀧田安浩(株大林組)  
遠藤文明(株大林組)  
平田隆祥(株大林組)  
石川郁男(株大林組)

- 2) コンクリートの浸水養生システムー型枠取りはずし後の給水養生工法の実用化とその効果ー(総合題目)

古川幸則(株間組)  
福留和人(株間組)  
庄野昭(株間組)

- 3) 三岐鉄道「萱生川橋梁」の設計と施工ー世界初のUFC鉄道橋ー

森川陽平(三岐鉄道株)  
谷村幸裕((公財)鉄道総合技術研究所)  
神尾正(全日本コンサルタント株)  
大熊光(大成建設株)

(3) 作品賞

- 1) アウルタワー

服部敦志(大成建設株)  
倉本真介(大成建設株)  
寺嶋知宏(大成建設株)  
宮田哲治(大成建設株)  
森康浩(大成建設株)

(4) 奨励賞

- 1) 空隙径に依存するセメント系材料の体積変化機構に関する基礎的研究(総合題目)  
浅本晋吾(埼玉大学)

(5) 功労賞

飯田一彦 一瀬賢一 加藤大介  
桜本文敏 佐藤勉 堤知明  
羽原俊祐

## 2. 支部表彰

支部別に以下の表彰が行われた。

- (1) 北海道支部

支部功績賞 2名  
支部優秀学生賞 4名

- (2) 東北支部

論文賞 5件, 技術賞 1件, 奨励賞 3件, 作品賞 2件, 特別賞 1件

- (3) 中国支部

コンクリートマイスター認定者 1名

(4) 九州支部

支部長表彰

大学院 18名, 大学 24名, 高専 3名, 専修 1名 合計 46名

### Ⅲ 収益事業

#### [ 収 1 資格付与事業 ]

##### 1. コンクリート技士・同主任技士資格制度事業

###### (1) コンクリート技士・同主任技士試験

11月25日(日)に、全国9都市(札幌, 仙台, 東京(船橋), 名古屋, 大阪, 広島, 高松, 福岡, 沖縄)の試験場において、コンクリート技士試験およびコンクリート主任技士試験第一次試験(筆記試験)を実施した。主任技士第一次試験合格者については、1月26日(土)に、東京において第二次試験(口述試験)を行った。

受験者は全国で技士7,923名, 主任技士3,228名で、合格者は技士2,372名(合格率29.9%), 同主任技士396名(合格率12.3%)であった。

###### (2) コンクリート技士・同主任技士の登録

コンクリート技士試験・同主任技士試験合格者からの申請に基づき、コンクリート技士2,342名(登録率98.7%), 同主任技士395名(登録率99.7%)の登録を行った。また、登録有効期間(4年)満了となる登録者、および未登録者からの申請により、更新・再登録を行った。この結果、平成25年4月1日現在の登録者数は、コンクリート技士42,220名, 同主任技士9,711名となった。

###### (3) コンクリート技士研修

コンクリート技士研修会を、7月2日から8月10日にかけて、全国15都市(札幌, 盛岡, 仙台, 新潟, 大宮, 東京, 浜松, 名古屋, 金沢, 大阪, 米子, 広島, 高松, 福岡, 鹿児島)において合計30回開催した。受講者は全国で9,164名(前年度8,950名)であった。

コンクリート技士試験・同主任技士試験の今年度の受験者と合格者、およびコンクリート技士・同主任技士の累積の登録者数の業種別内訳は、次のとおりである。

| 業種         | 試験 | 技士試験  |       | 主任技士試験 |     | 登録者    |       |
|------------|----|-------|-------|--------|-----|--------|-------|
|            |    | 受験者   | 合格者   | 受験者    | 合格者 | 技士     | 主任技士  |
| 官公庁・学校     |    | 185   | 103   | 35     | 9   | 1,535  | 290   |
| 設計・コンサルタント |    | 475   | 137   | 100    | 14  | 2,502  | 641   |
| セメント       |    | 127   | 58    | 51     | 20  | 622    | 451   |
| 混和材・骨材等    |    | 122   | 40    | 130    | 19  | 788    | 425   |
| 生コンクリート    |    | 1,678 | 351   | 1,881  | 180 | 9,969  | 3,413 |
| コンクリート製品   |    | 770   | 199   | 207    | 18  | 3,562  | 552   |
| 建設         |    | 3,701 | 1,188 | 638    | 116 | 19,364 | 2,991 |
| 電力・ガス      |    | 110   | 53    | 11     | 2   | 440    | 100   |
| 鉄道         |    | 215   | 79    | 8      | 1   | 511    | 63    |
| 道路         |    | 114   | 40    | 11     | 4   | 396    | 52    |
| その他        |    | 426   | 124   | 156    | 13  | 2,531  | 733   |
| 合計         |    | 7,923 | 2,372 | 3,228  | 396 | 42,220 | 9,711 |

## 2. コンクリート診断士資格制度事業

### (1) コンクリート診断士講習会

第12回コンクリート診断士講習会を3月31日から4月27日にかけて全国8都市（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、高松、広島、福岡）において合計12回開催した。受講者は、3,939名（前年度4,472名）であった。

### (2) コンクリート診断士試験

7月22日（日）に、全国9都市（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、高松、福岡、沖縄）においてコンクリート診断士試験を実施した。

全国の実験者数は4,945名（前年度5,640名）で、合格者は818名（合格率16.5%）であった。

### (3) コンクリート診断士の登録

診断士試験合格者からの申請に基づき、817名（登録率99.9%）の登録を行った。また、登録有効期間（4年）満了となる登録者、および未登録者のうちコンクリート診断士研修を受講した1,461名の更新・再登録を行った。この結果、平成25年4月1日現在のコンクリート診断士登録者数は9,939名となった。

### (4) コンクリート診断士研修会

第8回コンクリート診断士研修会を、10月1日から同26日にかけて、全国7都市（札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡）において合計8回開催した。研修では、「コンクリート診断士研修会調査報告書'12」を資料として、診断技術の動向、特別講演に続き、研修の後半でコンクリート診断の模擬体験のための演習を実施した。1,461名（前年度1,901名）が受講した。

本年度の実験者・合格者および累積の登録者数の業種別内訳は、次のとおりである。

| 業 種        | 受験者   | 合格者 | 登録者   |
|------------|-------|-----|-------|
| 官庁         | 46    | 12  | 103   |
| 独立行政法人・事業団 | 30    | 5   | 100   |
| 地方自治体・地方公社 | 176   | 56  | 436   |
| 大学・学校      | 5     | 4   | 57    |
| 設計事務所      | 76    | 9   | 150   |
| コンサルタント    | 1,238 | 164 | 2,306 |
| エンジニアリング   | 92    | 19  | 154   |
| セメント       | 76    | 22  | 307   |
| 混和材料       | 51    | 12  | 150   |
| 生コンクリート    | 378   | 47  | 452   |
| コンクリート製品   | 147   | 21  | 276   |
| 建設         | 2,081 | 333 | 4,026 |
| 調査診断       | 122   | 25  | 269   |
| 試験         | 40    | 2   | 61    |
| 電力・ガス      | 47    | 11  | 217   |
| 鉄道         | 65    | 18  | 167   |
| 道路         | 108   | 27  | 215   |
| その他        | 167   | 31  | 493   |
| 合 計        | 4,945 | 818 | 9,939 |

## [ 収 2 その他の収益事業 ]

### 1. コンクリートテクノプラザ 2012

コンクリート工学年次大会 2012（広島）と併行してコンクリートテクノプラザ 2012 を開催した。

展示 56 件（56 小間）

入場者 延べ約 4,200 名

技術紹介セッション 36 件

## IV そ の 他

### 1. 名誉会員の推挙

第 45 回定時社員総会で、大久保全陸氏、秋元泰輔氏、外門正直氏、小林和夫氏、松藤泰典氏、松崎育弘氏、小野紘一氏、宮本征夫氏、関 博氏、山崎淳氏、児島孝之氏、

大塚浩司氏，小谷俊介氏，佐伯昇氏，金鎮根氏の15名を名誉会員として推挙した。

## 2. 50周年記念事業準備委員会

2015年7月にJCI創立50周年記念事業を実施する。その事業活動は2013年度および2014年度に「JCI創立50周年記念事業実行委員会」を設置して実施する。

上記委員会の準備作業として「50周年記念事業準備委員会」を立ち上げ，記念事業の基本方針を検討した。

## 3. 長期財政安定化委員会

本学会の長期財政状況の安定化を目的として，現状の諸業務の活動状況，収支状況の詳細分析を行い，諸施策を提案・実施した。実施した主な諸施策を以下に示す。

- ・会誌製作費の削減
- ・懇親会の見直し
- ・割引航空券の利用推奨（総務財務委員会と共同）

## 4. 会員の動向

| 会員種別    | 平成23年度末<br>会員数 | 平成24年度中の異動 |     |     | 平成24年度末<br>会員数 |
|---------|----------------|------------|-----|-----|----------------|
|         |                | 入会         | 退会  | 異動  |                |
| 正会員     | 6,915          | 399        | 747 | 92  | 6,659          |
| 学生会員    | 236            | 254        | 34  | -92 | 364            |
| 第1種団体会員 | 36             | 2          | 0   | -   | 38             |
| 第2種団体会員 | 303            | 13         | 8   | -   | 308            |
| 計       | 7,490          | 668        | 789 | 0   | 7,369          |

\*異動：学生会員から正会員への変更

## 5. 役員の異動

(1) 平成24年6月8日付で退任(任期満了)，辞任した役員は次の通りである。

会 長 (代表理事) 榊田佳寛

副会長 小林茂広，三橋博三

専務理事 五十嵐英暉

理 事 和泉信之，一瀬賢一，大即信明，加藤大介，壁谷澤寿海，堺孝司，高橋徹，高橋義裕，富田知己，二羽淳一郎，野澤伸一郎，宮澤伸吾，宮本文穂，六郷恵哲，梅原秀哲(辞任)

監 事 佐藤智泰

(2) 平成24年6月8日付で就任した役員は次の通りである。

会 長 (代表理事) 魚本健人



副会長 阿部道彦, 藤井敏道

専務理事 河井 徹

理 事 荒木秀夫, 伊藤孝, 内田裕市, 梅原秀哲, 大野俊夫, 甲斐芳郎, 橘高義典,  
後藤康明, 玉井真一, 名和豊春, 野口貴文, 早川光敬, 真野孝次

監 事 石川雄康

(3) 平成 24 年 4 月 30 日に退任 (死亡) した役員は次の通りである。

理 事 古賀康男

(4) 平成 25 年 3 月 14 日に退任 (死亡) した役員は次の通りである。

理 事 後藤康明

以上